



御役料定書

全

73
2553



門 7 8
番
卷

夕貞

系
補
中



御役料定書

御役料定書

御役料之覺

東

一八百俵

千五百石より内ハ
九百俵

千石より内ハ
六百俵

千石より内ハ
四百俵

千石より内ハ
二百俵

織田能登守

中條對馬守

大友因幡守

高家衆

御側衆

御留守居衆

大御番衆

元
光
元

三千石より内ハ	一千俵	御書院番頭
三千石より内ハ	一千俵	御小性組番頭
三千石より内ハ	七百俵	大目付
三千石より内ハ	七百俵	町奉行
三千石より内ハ	七百俵	御勘定奉行
三千石より内ハ	三百俵	御旗奉行
三千石より内ハ	五百俵	百人組之頭
三千石より内ハ	三百俵	御鑓奉行
三千石より内ハ	三百俵	御持弓御持筒頭
三千石より内ハ	四百俵	西丸御留守居

五千石より内ハ	三百俵	新御番頭
五千石より内ハ	三百俵	御作事奉行
五千石より内ハ	三百俵	御普請奉行
五千石より内ハ	三百俵	惣御弓御鐵炮頭
五千石より内ハ	三百俵	御留守居番
五千石より内ハ	三百俵	御目付
五千石より内ハ	三百俵	御使番
五千石より内ハ	三百俵	御書院番組頭
五千石より内ハ	三百俵	御小性組之組頭
五千石より内ハ	二百俵	西丸御裏門番之頭

千石より内ハ
三百俵

御歩行頭

千石より内ハ
二百俵

小十人組之頭

五百石より内ハ
貳百俵

二九御留守居

千石より内ハ
貳百俵

御鐵炮方

五百石より内ハ
貳百俵

御腰物奉行

五百石より内ハ
貳百俵

御糸手

千石より内ハ
三百俵

御勘定吟味役

貳百俵

奥御右筆組頭

貳百俵

新御番組頭

四百俵より内ハ
百廿拾俵

表御右筆組頭

三百俵より内ハ
百俵

御膳奉行

四百俵より内ハ
百俵

御納戸組頭

五百石より内ハ
貳百俵

大御番組頭

三百俵より内ハ
百俵

小十人組之組頭

三百石より内ハ
百俵

御勘定組頭

五百石より内ハ
百俵

御金奉行

三百俵より内ハ
百俵

御裏門番之頭

三百俵より内ハ
百俵

御廣敷番之頭

三百俵より内ハ
百俵

西丸御切手御間番之頭

正徳五未二月十一日高野香井指石
内藤半藏被仰身候時如此極ル

三百俵より内ハ

御天守番之頭

三百俵より内ハ

富士見御寶藏番之頭

百俵五人扶持より内ハ

御細工頭

三百石より内ハ

御賄頭

二百俵四人扶持より内ハ

御臺所頭

先規より取來御役料

一貳百人扶持

火消役

一參拾人扶持

道奉行

一參拾人扶持

小普請方

一貳百俵

御藏奉行

一貳百俵

書替奉行

一四千四百貳俵餘

長崎奉行

是ハ御役料並与力同心御切込御扶持方共

一千五百俵

京都町奉行

一千五百俵

大阪町奉行

一千五百俵

山田奉行

一千俵

奈良奉行

一千七百俵

堺奉行

一千五百俵

日光奉行

一 五百俵	駿府町奉行
一 千五百俵	佐渡奉行
一 貳百俵	下田奉行
一 御合 <small>關字</small> 百貳拾石	二條御城御門番之頭
一 御役料四拾石	二條御鐵炮奉行
一 全四拾石	全御藏奉行
一 御合力米八拾石	大阪御弓奉行
一 同斷	同御鐵炮奉行
一 同斷	全御具足奉行
一 同斷	全御金奉行

一 同斷	全御破損奉行 <small>御杖木奉行並之</small>
一 同斷	全御藏奉行
一 參拾人扶持	駿府御破損奉行
一 五百俵	御側高家衆
一 千石 <small>内</small> 三百俵	御小姓衆
一 千石 <small>内</small> 三百俵	御小納戸衆
一 貳百俵	土圭間番組頭
一 貳百俵	御用方御右筆
一 御番 <small>欠</small> 百俵	土圭間番

奥醫師

数原元長院

河野松庵

淡江通玄院

本林宗乙

今井元昌

村上養純

千田玄知

奥醫師

一位様
月光院様
御用人

一御番料貳百俵

一仝百俵

一貳百俵

一百俵

正徳五年三月十一日鈴木安右衛門新
規被仰身御加増百俵都合四百俵
二被仰身御加増百俵都合四百俵

竹姫君様

御用人

一百俵

法心院様

御用人

一百俵

蓮淨院様

御用人

覺

一江戸並遠國御役人御役料之儀向後等
分二割三ツ子已付春隻冬三度三可相渡候
依之四月迄之内御役御免歟被召放候ハ、
春御役料可為返納候五月ハ、入候ハ、不及
返納候九月ハ、入候ハ、不返納候十二月迄之
内、而候ハ、冬御役料可致返納候但病

死之者ハ春夏冬共ニ不返納候御役替之面
々ハ後之御役付御役料有之候ハ、過不
是不在差引御役替以後ハ後之御役付
候御役料高キ以請取可申候事

附御役料有之候御役付之御役料無之

御役江替候ハ、返納之儀同之上御勘

定頭添状可有之候事

一先役人御役料不請取内御役御免歟又
ハ被召放候^歟或ハ病死ニ而跡役被仰付
候節四月迄内ニ而候ハ、是々年分ノ積可

相渡候五月ノ入候ハ、春御役料相除殘分ハ
是候時節可相渡九月ノ入候ハ、春夏之分相除
冬之分ハ是候時可相渡候事

附^{先役}人者御役料請取候以後跡役四月迄之内

被仰付候ハ、夏御役料ヨリ請取可申候

先役人夏御役料請取候以後跡役八月迄

之内被仰付候ハ、冬御役料ヨリ請取可

申候先役人冬御役料共ニ不殘請取候

以後跡役其年之内被仰付候ハ、冬之
分計可被下候事

一閏月ハ返納渡方共、其月數之内竈候積
可相心得候事

一父子相勤子御役料取未候時父相果踏
式被仰付候節子御役料請取候分ハ不及
返納候事

一字細有之不時、請取候御役料ハ至其節
可相窺之事

一御役扶持有之面々未月分と前之月請
取候以後御役替取又ハ御役被召取候
時ハ可為返納候但月と越候ハ不及返

納候且亦御役扶持前之月請取候以後相果候
ハ、不及返納候事

以上

元禄十五年十月

是ハ奥御右筆(福明)

一御加増御足茶被下御役料上り候面々惣
而御加増御足茶被下候翌年より上り其年
之御役料返納ハ無之

